

一一 百姓吉凶・音信・送迎之儀
御定

一、小百姓は不及申、御扶持人・十村・長百姓たりといふ共、常に振廻之つきあひ仕間敷候。神事或葬禮・年忌之法事、或はよめどり・むこ入祝儀之刻、親類・縁者寄合候共、一汁三菜香之物共に、酒二へんたるべし。後段之振廻、何にても出すまじく候。御扶持人・十村・長百姓迄茂、諸鳥井不似合者など調候儀、御停止之事。

附り、祝儀に付刀・脇指等遺儀無用之事。

一、御郡百姓并御扶持人・十村より、給人其外侍・町人へ音信仕儀御停止之事。

附り、年々藏宿など仕ものは、跡々之通たるべき事。

一、誰々によらず往行之刻、宿主たりといふとも送迎仕間敷候。御用又者斷有之罷出候儀は、各別之事。

以上

申七月六日

一二 百姓等他國へ參候儀御定
覺

一、在々百姓并頭振、他國へ一人茂遣申間敷候。日用にやとはれ參候共、他國に居とまり申間敷候。他國に居留り不申様、一類共急度可申付事。

一、從跡々他國へ參候もの、十村致吟味、其一類に申渡呼返可申事。

一、奉公人暇をもらひ、日用取・頭振に成候はゞ、曲事に可被仰付候。但、引籠作を仕儀者各別之事。

一、在々百姓并頭振男之分人數、一ヶ村切十村帳面に記可置事。

一、向後男子十歳に成候はゞ、帳面に書加、他國へ遣申間敷事。

右郡中并宿々々、急度可被申渡候。毎年春秋兩度に可被相改候。以上。

子正月晦日

御郡奉行

一三 奉公女他國へ遣候儀御定

一、郡中より、向後年季之奉公女他國へ遣候節、十村共請縮之番付に、各被致添番可被出候。以上。

卯二月廿八日

横山左衛門

小幡 宮内

長 九郎左衛門

本多 安房

千秋喜兵衛殿

橋本治部左衛門殿

一四 御郡方へ御用申渡候儀御定

御郡中御用之儀、向後御算用場奉行之外申渡儀者、承引有間敷候。但、急之儀に付而諸奉行より申越候者、早速爲動、追而御算用場へ可申斷候。以上。

亥十月廿八日

今 枝 民部

奥 村 因 幡

奥 村 河 内

御郡奉行

前田對馬

一五 宿方傳馬使用之儀觸

私共支配三那宿方馬借、近年商人荷物致減少、傳馬荷物次第に多罷成、馬借持共并宿方荷問屋、必至と潤色無御座、難儀仕候。依之馬借おのづから致不足、或弱馬に成、宿方御用勤兼申替罷成候。元文三年茂、宿方之儀關屋佐左衛門・林源太左衛門相勤候節及御斷、一統被仰觸候。馬借困窮仕候に付、御貸米奉願、御貸渡被下爲取續、宿方御定之馬數丈夫に持立候所、近年宿方荷物之様子猥に罷成、宿方并馬借難儀仕候。此通御座候而者、次第馬借數減少可仕と奉存候間、左に相調候通、一統被仰觸候様仕度奉存候。

一、近年加越・能所々御藏米・引免御引足米・御下行米・侍中飯米等藏出之時分、侍中假名を以傳馬に而駄數多差出、此内金澤町人共方へ附届候様に申渡、搦屋・酒屋或は米問屋等へ過半に爲差届候故、町人共侍中假名を以南米附寄候哉、紛敷御座候。是以後侍中飯米に而茂、町人方へ直に差